

(前頁より)
 ごい努力はしています。その努力が中小企業の従業員には伝わっていない感じがします。大企業の従業員は、出向とか、配置転換とかさせられたりしますが、中小企業の場合には、そういう厳しさにはまだ手をつけていない感じがします。例えば百円の物が九十円にしか売れないということなら、九十円でどういうふうにつくるかという社内検討みたいなものが工場内に全部伝わっていないとこれから利益を出すのは難しいと思います。ですから、今の賃金を考えると、革

新春講演会 新春賀詞交歓会

蒲田工業協同組合
同 木 鶏 会

明けましておめでとうございいたしますが、万障お繰り合わせます。皆さま方には、ご健勝にて平成八年の新春をお迎えになられたことと心からお慶びを申し上げます。
 旧年中は格別のご高配ご支援を賜り衷心より厚くお礼申し上げます。本年も何卒ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

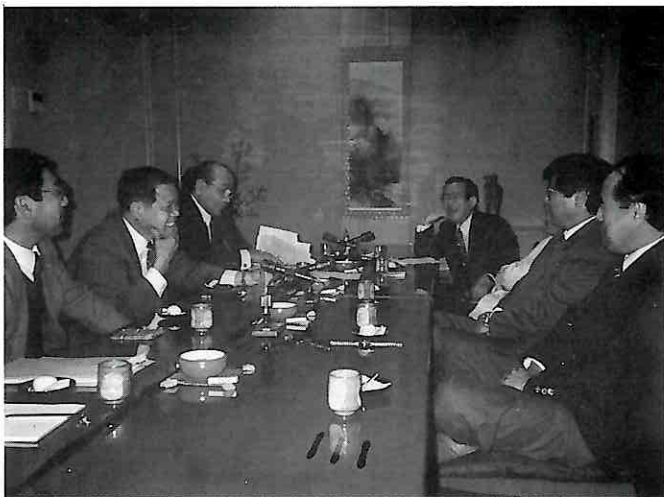
日時 平成八年一月十日(日) 午後四時～五時半
 場所 ア・ペア
 テーマ 「本年の景況と企業経営」
 副題

さて、恒例の新春講演会並びに新春賀詞交歓会を左記の通り開催いたします。
 講師 経済評論家・国際エコーニスト 長谷川慶太郎氏
 日時 平成八年一月十日(日) 午後五時四十分より
 場所 ア・ペア
 会費 一万五千円
 (当日ご持参下さい)

これからは物のつくり方を変えないと太刀打ちできないと感じています。司会者 どのあたりに。E 今、Bさんの話しなんでしょうけれども、物のつくり方を安くつくる方に変えるということは簡単です。けれども、全体的なコストを下げるということがすごく時間がかかります。それをこれからどういうふうにしてやるのか深刻に考えています。B 結果的には、新しい性能の機械にかえるのも一つの方法なんです。Bが、今の賃金を考えると、革

命じやないけれども、根本的につくり方を変える。お得意さんには設計変更を申し入れる。そういうことをしていくような力もつけていかないと、値段は下がらないと思います。G ちよつと角度は違うんですけど、大企業が中小企業に対して値下げする方向がこの円高からきた空洞化のための、値下げ幅が今までと全然違う形になってきています。ところが円高で空洞化が激しくなると、おまへのところが国内でやるんだつたら、この単価でやらなければだめだ。今までの値引きと次元が違つちゃうんです。B そうすると、我々は、自分のところで開発した自社製部品を持つていては別だけれども、お得意さんからの値引要請が自分とこのコスト割れを起すよやうであれば、どこかでやめるしかありません。G 生き残る方法もあるような気がしますが。それは、社長が、みずから、自分の会社は特徴のある会社にするんだ。例えば中小企業であっても、国際規格—ISOですか—がら取つてみせるという気概もあつて、技術と品質に対して本当に前向きな物の考え方をする会社でしたら、特色がありますから生き残れるんじゃないかと思ひます。F しかし、ISOのレベルと言へば相当のものです。G 従業員の教育の問題です。どうやって教育するか……。

ソフトと熟練工



C 人の問題と、資金の問題があるわけ。今我々のところで一番大きな負担になっているのは、固定費です。固定費の中では人件費が一番多いわけ。先ほど言われたように、ソフトの面、これを今まで非常に怠つてきた。ですから、ソフト、管理上の問題、直間比率、そういう問題がいろいろあるわけですから、これを直す、なおかつ、得意先の受託金額という問題もあるわけ。どうしてもできないものについては取捨選択していく。そういうきちんとした経営姿勢というものを出して、最終的に自分のところの特徴を生かしていく。それから、どうしても熟練工が足りない、その辺、遅まきながら原点に戻つてやっていくしかないんじゃないかと思ひます。F 熟練工が欲しいということ。B Cさんのところはいい仕事をやっていると。B 私のところは、本当に技術レベルも高いし、それから熟練工もいっぱいいます。けれども、それが高く売れない。悩みが大きい。それをいかに高く売るか、もっと強気に出ることも大事なこと思ひます。F けれども、お得意先が一方通行のところですか。H 例へば、メインマシンを三割アップしたスピードのものを入れる。これは従来の手法です。今はコンピュータが承知のように入りに入ります。今まで五日間も熟練工がやっていたものが、わずか十五分でできるソフトが今売られています。ダウンサイジングでそれが手に入る時代になってきました。A 先ほどお話しがありました。B が、参考までに昨年九月二十九日の日経の調べでは、都内の工場数が八・六割減少、大田区の工場数は三千四百二十八社、従業員数としては、五万六千五百二十五人となっています。私は仕事は量だけで考えるものではないと思ひます。C 肝心なことは、熟練者のコストをどう下げるかということだと思ひます。若年者にいかに早く熟練の技術を継承していくかということだと思ひます。若者が何でも大企業オンリーというところに来ていたのが、多少特徴ある企業にも行きたいというのが結構ふえてきているみたいです。女性の技能者の育成ということもこれから必要になってくるかも知れません。A 三Kなんていう言葉が出てきたときから比べれば、労働市場というものも大分変わつています。いつも先輩に怒られますが、やっぱり教育ですね。国の教育方針をそういう形に持つていってやらねえと、価値観のベースが違つてくると思ひます。ですから、時間はかかる。けれども、一時期から比べれば、すぐれた若年労働力を吸収するだけの労働市場というのは、私はい

機械のお医者さん

たまたま私の会社で、正面旋盤二人、それからここに二になるのが一つあります。あの古いやつが人。三日間で軸を外して修理して動かなくなつたんです。貧乏会社ですから買うわけにもいきません。そうしたら横浜に「機械のお医者さん」という看板が出ている。うです。修理に三十万ぐらいかかるということでした。買いかえたら一千万以上するんです。それでやろうというところになりました。そのうち職人が

労働市場の変化

入っているわけ。現実には我々を含めて。その中で残つていくために、自分のところがそれだけのノウハウを持つていかどうか、経営者として残さなくちゃいけないかというところまで前向きにどういうときでも前向きにどういふ程度前傾姿勢でないと残らないんじゃないですか。B 大田区の工場が減つたというの、不況だけでなく、後継者がいないというの、一つの問題となつています。出席者 (五十音順・略敬称) 石森憲 株式会社 東電舎 市川宗 株式会社 日本中空鋼株式会社 工藤勝 株式会社 内田製作所 小林章彦 株式会社 日章機械 信藤秀夫 シンダー工業株式会社 杉谷順 杉谷金属工業株式会社 長坂基秀 長坂精機株式会社 西ヶ谷勝美 株式会社 東京精機製造製作所 増田道造 岡田銀金株式会社 岡野弘 事務局

(前頁より) きてると思います。

B 製造業の平均年令というの は確実に上がっています。

第三次産業例えばコンビニエー ターとか、ファッション関係とかい うのは、幾らでも若い人がいるわ けですが、物をつくることには全 然無関心です。

今の若者たちは生れたときから 物があふれているから、物をつく る必要がないわけです。

F だから日本はだめだと言わ れています。イタリアあたりは、 あんなやみ市経済でも生き残って いるじゃないですか。価値観が違 うんですよ。

今イタリアの品物はものすく しいです。それはいつかわかります。 要するに文部省の教育が悪いと いうことでしょうか。

そこまで心配するのは政治家な りです。(笑)

司会者 政治の方まで話が進み ましたけれども、政治と経済とは 表裏一体なものですけれども、や はり政治が悪い。

今皆さんからの話を拝聴して おりますと、技術屋のコストをい かに下げたとか、従業員のスキ ルの問題と、それから後継者の問 題、もう一つはそのソフトの問題、 ローコストの問題、これらが絡ん じゃって一体何がどつちへどう向 くのかと。

堺屋さんの言葉をかりればうっ ちむきかげんという先のめるよう な傾向ですので、そういうときの 価値観は一体どういう価値観を持 っとその事業を引っ張っていくこ とができるのだろうか、ただ単に コストを下げればよいという行動 に出るのか、いや、そうじゃない よという行き方なのか。

価値観について……。

長が先頭に立って働かないとどう だめだと思えます。

社長がみずから働かないような 企業は、悪いけれども大変でしょ うね。そのくらい覚悟を社長は 持たなきゃいけないということだ すね。

司会者 そういう価値観ね。 G その理由はなぜかというこ と、さつきBさんが、去年百円のもの がここと九十円だけしか売れないん だということ、ニューアンスのこと を言われたんですよ。

そういうもの考え方をされる こと自体が、デフレ経済になって いるんですよ。

司会者 先ほど社長みずからや りてきたじゃないかと。 そのときに動いていたそれと同 じようにやっても物が下がる。 えらいギャップがあるのでは。 G だから、その差をどうする

か……。

司会者 プラスマイナスです。 読みですからね。 F それは生活費が下がらない から、ちつとも下がらない。 それは国の……。

G かわりに言ってくれました。 今までインフレモードで、もう 給料は上がるものだという考え方 で基盤が積み重なっていたんです。 それじゃもうだめなんです。 新しい発想で新しい物の考え方 をしないと会社の経営は大変だと 思います。

司会者 これは昨年の十月二十 一日の日報なんですが、三井金属 が「ペア今春にも廃止」という記 事が出ていました。 奋斗は事実上なくすと。 今度は賃金が上がるんじゃないか、 上がると、上がるよという価値 観があったんですけど……。

長が先頭に立って働かないとどう だめだと思えます。

価値観の変化

F 突き詰めていくとユートピア になっちゃいます。 毎日精いっぱいやることは自分 の満足なんだという衝動で合理化 をするのが一番いいことですよ。 精いっぱいやって、それが利益 になってくる、そういう基本的な ものが違う。 ユートピアというのはギリシア 語でどこにもないということ。 B 父の時代は職人さんがころ ころいて、お得意さんから難しい 仕事になればなるほど職人さんが 意気に感じて、夜中までやる。 それでも残業手当なんて言わな かった。おやじがよかつたんだよ 言って一杯出してやる。小遣をや る、そういう雰囲気、生きがいがある。 F 一語に喜びも悲しみも、例 えばいいものをつつたな、治工 具でも、これはすごいよという言 葉が随分励みになる。 さつきBさんが言ったように、 とことんまで持つていてもまだ 安い。じゃそのつくつていてもまだ が悪いんじゃないかと考えること が必要ですね。 B 例えば、同じ機械を使つて 同じ工法でやるという観念は、自 分の首を締めるだけで、まるつき り違った発想で取り組まないと、 コストというのは変わりません。 F さんが、社長みずから働 かなきゃだめだといっていました。 私、これからますます、社

能力給と最低賃金

C 今、実際に我々のところは、 賃金がダウンしているんです。 というのは、従来、賞与なんか である程度やっていたわけですが、 月々の賃金が変わらなくても残業 が少なくなつた、それから賞与が 従来一・五カ月もらつたのが今一 ・五しかない。実質、従業員の取 入は減っているわけですよ。 それも限界にきているわけですよ。 私には能力にに応じた賃金というの が今後どうしても必要になつてく る。たとへば、一・五ヶ月の賞与 をもらつていたのを能力のないの は〇・五でもやむを得ないと。 そういうふうな経営姿勢という



差こそ平等

されてもしようがないんじゃない ですか。 そういう問題を労働者あたりが 考えていないわけですよ。 C 最低賃金法以下では、恐ろ しい人材は来ないですね。 だからそうじゃなくて、過去の ベースアップ、年功序列等にどう 対処してゆかかというのが大きな 問題ではないかと思うんです。 大企業の場合は、いわゆる肩た たくで、多少割り増しの退職金を 払つてもできるわけですね。 そういうふうなことをある程度 やつていかざるを得なくなつたの が今じゃないですか。そこでも 追い込まれたなと思つています。 原点に戻つてもう一回やつてい かなきゃいけないと思つています。 答を出すしかありません。 司会者 昨年の十一月九日に、 日刊工業があの企業を考えると いう論文を発表しました。 皆さんもごらんになつたと思ひ ますが……。 これはフレッシユマンの産業論 文コンクルの人賞なんです。皆 さんの直観的なフィードバックは どう思われますか。 B これは私も読んで、経営者 として、こういう情報をいかに生 かして生き残るかという、その答 えを出すのに頭を痛めているん です。 司会者 そうなつてくると、今 度は仕掛けがどうですかね。 これを自分の価値観とするなら ば、それに対してどういうふうな 組み方があるのかということにな つかうと思つています。 私はそこら辺のところを皆さん がどういうふうにお考えになっ ているかと……。 F それは労働問題の基本的な 問題です。 H 人材確保というか、育てる というか、やつぱり差をつけてい かなければいけないし、やればや つただけのことがなければ定着し ませんし、人材が頭数じゃなくな っただけで、その中で少数精鋭 という物の考え方もあるし、ただ、 それは、Fさんが言われたように、 短兵急にやつてしまつたと絶対い けない、歴史があるから。 時間をかけてやつていかなくち やいけません。 ただ、時間があるか。 自分が競争力を維持できるかと いうことは常に考えています。 F それは無理ですよ。 だから経営者は金を持つている んじゃないですか。 H ないんですよ。 F なくちや我慢しくなくちや しようがない。(笑) G 年功序列型賃金というのは、 もうほとんどなくなりつつありま すね。働いている人の実績、要す るにアメリカ式の賃金に近づきつ つあるんじゃないですかね。 H 一段と厳しく査定せざるを得 なくなつてきたということですね。 ただ、我々のところで非常に平 均年令が高いというのは、決して マイナス要因じゃないかと考え ています。 こういう変化があるときには、 逆にプラス要因じゃないかと考え ています。 F いい腕をもっているものね。 スキルをね。 司会者 司会者が余りうまくな いので、話があつちへ行つたりこ つちへ行つたりして申しわけござ いませんでした。何かまとまつた ようなまとまらないような話にな っしまいました。草柳大蔵さん がこういうことをおっしゃってい ます。銀行の不良負債というのは、 ほとんどこれは格好つたろう。 ただ、もつと怖いところがあるよ。 それは今の企業が、おおよそ 二五%から三〇%、中間管理職を 抱えている。 今はいいけれども、もう何年か たつうちに耐えられなくなつて、 これを放り出すときが来るだろう。 それが出たら、えらいことだよ。 というのは、この中間管理職とい うところが消費を支えているとい うんです。それを出されると、 消費がまたえらい落ち込むとい うことで、面倒見切れない……。 まだ日本は横を見ているという んですよ。と 長時間にわたりました。お話をち ょうだいできましてありがとうございます。 今年、ひとつ健康に留意してい たいと思います。 どうもありがとうございます。(拍手)



計報

滝口文彦氏 株式会社滝口製作所 (大田区蒲田一三三二一) 代表者滝口正文氏(尊父滝口文彦氏(八才)は病氣療養中のところ去る八月十四日逝去されました。謹んでご冥福を祈念申し上げます。

長坂隆氏 長坂精機株式会社

(大田区東橋谷一三二一六代表者長坂基秀氏(会長長坂隆氏七六才)は病氣療養中のところ去る十月(四日)逝去されました。謹んでご冥福を祈念申し上げます。

代表者変更

尼寺空正工業株式会社(大田区西六郷二五十一十二) 新代表者 尼寺 実

業務報告

七月十三日 懇親ゴルフコンペ (木鶏会・於富士平原ゴルフクラブ)

七月十九日 工場見学並に納涼祭



永年勤続従業員表彰式



N T T 横須賀工場見学



木鶏会忘年会

営サロ(木鶏会・於柳) 見学先 N T T(横須賀研究開発センター) 七月二十六日(二十七日) 定期健康診断巡回 八月一日 機関紙「業蒲田」発行 主な記事 日本人はアメリカに騙されている。ビル・トッテン氏。組員だより。 集合室・自動車ローン・グループ保険・利用案内。 業務報告。 組員有志等に見舞連名広告。 八月八日(十一日) 技術指導講習会「NC機械(旋盤)入門講座」 八月二十八日 常任理事会

1、大阪伸栄工業(株)割引手形担保差し替えについて。 八月二十八日(九月一日) 技術指導講習会(やさしい図面の見方) 九月六日 定例経営サロ(木鶏会) 主な話題 土地の値下がりに伴う担保力の減少について。 人件費・環境問題について。 PL法施行に伴う各社の対応。 九月十九日 青年部経営サロ(木鶏会) 主な話題 中央会青年部ホームパーティーについて。 シンガポール工場視察報告。 十月四日 正副会長会議(木鶏会)

十月四日 定例経営サロ(木鶏会) 主な話題 コンピューター導入による中小企業のあり方。 ①通信網を整備し、コスト軽減を図った。 ②多額の資金が必要、要考慮。 ロボットを活用し効率化の時代。 ①小量化への対処方法。 ②手作業に依存する分野もあり。 十月十七日 青年部経営サロ(木鶏会) 主な話題 「五年後の自分の会社は」 ①理想の社長像を求め努力し、活気のある会社作り。 ②企業経営には目標設定が重要。 ③自分の会社で働きたいと思う会社作り。

④激動する現代の危機管理経営。 十月二十三日 常任理事会 1、東邦医大通り道路拡張に伴う当組合所有駐車場土地一部取用について報告、全員これを諒察。 2、九月末試算表報告について。 別紙試算表について報告、全員これを諒察。 3、放談会について。 4、新春講演会・賀詞交歓会について。 左記の通り決定 日時(平成八年一月十一日) 午後四時新春講演会、午後五時四十分より新春賀詞交歓会 場所(ア・ペア 講演会テーマ「本年の景況と公開發注はチャンスである。 PL法には、開発製品のみという部分加入ができる。 十一月七日 理事会 1、東邦医大通り道路拡張に伴う当組合所有駐車場土地一部取用について報告、全員これを諒察。 十二月十日(十一日) 工場見学並に水上から日光方面紅葉狩(木鶏会) 見学先 マックス(株)玉村工場 十一月十七日 常任理事会 1、業務報告。 2、職員年末手当について。 3、年末年始休日について。 (十一月十九日(二十一日) 十二月十七日 放談会・懇親会(於ときわ) 十二月二十二日 青年部経営サロ(木鶏会) 主な話題 1、ヨーロッパ・アメリカ視察報告。 2、各社の現況と、賞与支給等の意見交換。

企業経営) 副題・今年やらねばならぬことは 講師(経済評論家・国際エコノミスト) 長谷川慶太郎氏。 5、永年勤続優良従業員表彰について。 十一月一日 定例経営サロ(木鶏会) 主な話題 草柳大蔵氏の講演内容について。 当組合でのパトナル企業体について。 安価で良質の製品を作るも技術。 新分野の生産増加、売値が安く対応を考慮中。 付加価値中、人件費(80%)の割合大。 公開發注はチャンスである。 PL法には、開発製品のみという部分加入ができる。 十一月七日 理事会 1、東邦医大通り道路拡張に伴う当組合所有駐車場土地一部取用について報告、全員これを諒察。 十二月十日(十一日) 工場見学並に水上から日光方面紅葉狩(木鶏会) 見学先 マックス(株)玉村工場 十一月十七日 常任理事会 1、業務報告。 2、職員年末手当について。 3、年末年始休日について。 (十一月十九日(二十一日) 十二月十七日 放談会・懇親会(於ときわ) 十二月二十二日 青年部経営サロ(木鶏会) 主な話題 1、ヨーロッパ・アメリカ視察報告。 2、各社の現況と、賞与支給等の意見交換。

十一月二十三日 永年勤続優良従業員表彰式(於大田区民プラザ) 被表彰者は左記の通りです。 五年以上勤続優良従業員(社名五十首順、敬称略) 前田東雄(尼寺空正工業株式会社)、石崎節子(龍崎洋子・獅子倉則子・内利利雄・大川博規 斎藤登・大木規宏・築地久江・興石ユウ子・武井さつ子・早川ミヤ子・君島祥浩・丸山由美子・石田由紀子・小高津津子・岡田美和・田崎八奈栄・実川幸徳・宮沢正一・二至禮絹江・立花亮子・河野さゆき・江川キヨ (太産工業株式会社) 以上 社 十四名 十年以上勤続優良従業員(社名五十首順、敬称略) 野沢セツ・清水忠男・横井猛・和田実夫(株式会社清川製作所) 中瀬なつ子・佐藤節子・田中広之・三角誠・保谷美津子・武藤ユウ子(太産工業株式会社) 以上 社 十名 十二月十七日 忘年会(木鶏会・於磯辺) 十二月十九日 青年部忘年会(木鶏会・於ひよこ) 以上



年末・年始休日のお知らせ 年末・年始の組合事務局の休日は左記の通りとさせていただきます。

年末は、十一月十九日(金) 年始は一月四日(木)の間

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合員有志

(五十音順)

機械器具製造業

尼寺空圧工業株式会社

代表取締役 尼寺 実

株式会社 極東精機製作所

代表取締役 鈴木 福男

株式会社 弘 機 商 会

代表取締役 坪根 五久代

坂口精密工業株式会社

代表取締役 坂口 俊夫

株式会社 タンケンシールセーコウ

代表取締役 永井 彌太郎

ティヴィバルブ株式会社

代表取締役 竹内 榮多

株式会社 東京精密器具製作所

取締役社長 西ヶ谷 静司

東 亜 株 式 会 社

代表取締役 小柳 隆

長 坂 精 機 株 式 会 社

代表取締役 長坂 基秀

株式会社 中谷機械製作所

代表取締役 中谷 和彦

日本チェンギヤ―無段変速機株式会社

代表取締役 加藤 進弘

有限会社 富士精機製作所

代表取締役 荻野 幸男

株式会社 藤 原 製 作 所

代表取締役 藤原 徳一

株式会社 文 化 精 工

代表取締役 桑原 久直

電気機械器具製造業

出 雲 電 機 株 式 会 社

代表取締役 雲野 和信

太 産 工 業 株 式 会 社

取締役社長 千葉 博

株式会社 東 電 舎

取締役社長 石森 憲蔵

東京軽電機株式会社

代表取締役社長 渡辺 哲也

株式会社 中山電機工藝社

代表取締役 中山 致

永 森 電 機 株 式 会 社

取締役社長 永森 忠夫

株式会社 日 産 電 機

代表取締役 中村 國男

株式会社 マ コ メ 研 究 所

代表取締役 植村 三良

株式会社 ユ タ カ 製 作 所

代表取締役 石田 啓介

輸送用機械器具製造業

江 崎 工 業 株 式 会 社

取締役社長 江崎 武

荏 原 工 業 株 式 会 社

取締役社長 長井 俊樹

謹 賀 新 年

蒲田工業協同組合

(五十音順)

顧問 千葉 博
相談役 海老名 正教

理事長 石森 憲蔵

副理事長 西ヶ谷 勝美

会計担当 市川 宗紘

専務理事 赤井 弘志

常任理事 杉谷 順弘

常任理事 増田 道造

理事 新井 陽一

理事 岩崎 登喜雄

理事 大谷 文雄

理事 加藤 進弘

理事 川瀬 純一

理事 工藤 勝広

理事 小林 章彦

理事 鳥海 保男

理事 長井 俊樹

理事 長坂 基秀

理事 西野 三郎

理事 野口 広

理事 豊間 厚

理事 中山 致

監事 岡野 弘

監事 岡野 弘

事務局 局長 岡野 弘

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

蒲田工業協同組合員有志

(五十音順)

(前頁より)

輸送用機械器具製造業

株式会社 大谷造機所
取締役社長 大谷文雄

株式会社 清川製作所
代表取締役 川瀬純一

株式会社 東京スピンドル製作所
代表取締役 堀井脩市

株式会社 鳥海製作所
代表取締役 鳥海保男

日本中空鋼株式会社
代表取締役 市川宗紘

株式会社 蛭田電機製作所
代表取締役 蛭田政行

金属製品製造業

佐々木発條株式会社
代表取締役 佐々木典子

シンドー工業株式会社
代表取締役 信藤秀夫

同和発條株式会社
取締役社長 川島慎治

株式会社 羽田パイプ製造所
取締役社長 野口広

有限会社 早崎製作所
代表取締役 早崎吉春

株式会社 松原製作所
代表取締役 松原一喜

プレス・鋅金・製罐業

株式会社 赤井製作所
代表取締役 赤井弘志

株式会社 新井久四郎鉄工所
代表取締役 新井陽一

株式会社 内田製作所
代表取締役 内田正勝

株式会社 内原製作所
専務取締役 内原康雄

株式会社 榎田製作所
代表取締役 榎田幸司

岡田鋅金株式会社
代表取締役 増田道造

協和鋅金株式会社
代表取締役 服部和央

大和部品株式会社
代表取締役 今井敏夫

多田プレス工業株式会社
取締役社長 多田嘉之

メッキ業

金属表面処理業

エビナ電化工業株式会社
取締役社長 海老名平吉

株式会社 三協アルマイト
代表取締役 岩崎登喜雄

鋳物・鍛造業

有限会社 京浜鋳造所
代表取締役 神道晃

杉谷金属工業株式会社
取締役社長 杉谷順弘

その他

岩佐工機株式会社
代表取締役 岩佐勇

大阪伸栄工業株式会社
代表取締役 鶴巻英樹

株式会社 KAWAHARA
代表取締役 河野茂

株式会社 気球製作所
代表取締役 豊間厚

合資会社 ニシノ
代表社員 西野三郎

株式会社 日章機械
代表取締役社長 小林章彦

三津浜工業株式会社
取締役社長 木々津栄一